

医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	術前の栄養状態、フレイルが脊椎手術後の臨床成績、周術期合併症に与える影響に関する後ろ向き観察研究
所属科*	整形外科
研究責任者*	古市 拓也
研究実施期間	開始 西暦 2026 年 7 月 31 日 ~ 終了 西暦 2031 年 7 月 31 日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	脊椎変性疾患 (800 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2014 年 10 月 1 日 ~ 至 西暦 2025 年 12 月 31 日
研究概要*	脊椎手術後の臨床成績や周術期合併症、神経学的予後には、年齢、併存疾患、栄養状態、フレイル、神経学的重症度、歩行機能、画像所見および脊柱アライメントなど、さまざまな術前因子が関与すると考えられる。しかし、これらの因子が術後転倒、感染、嚥下障害、機能回復、骨癒合、再手術、術後脊柱アライメントなどの転帰に与える影響は十分に明らかではない。本研究の目的は、当院で脊椎疾患に対して手術を受けた患者の診療情報を後ろ向きに解析し、術前患者因子および画像所見と、術後臨床成績、周術期合併症、神経学的予後ならびに脊柱アライメントとの関連を明らかにすることである。個別の解析課題として、頸髄症手術患者における術前栄養状態、フレイル、神経学的重症度および歩行機能と術後入院中の転倒との関連、脊柱アライメントおよび手術矯正が術後アライメントに与える影響を検討する。 診療録、看護記録、リハビリテーション記録、血液検査、院内インシデントレポートおよび画像検査から、患者背景、併存疾患、栄養指標、フレイル、神経学的評価、歩行状態、手術関連因子、術後合併症、臨床成績、患者報告アウトカムおよび脊柱アライメントを収集し、各術後転帰との関連を統計学的に検討する。
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	連結可能匿名化を行う。対応表はそれぞれの部署で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化されたデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。
研究の問い合わせ先*	大阪労災病院 整形外科 古市 拓也 〒591-8025 大阪府堺市北区長曾根町 1179-3